

CA1
EA947
B71
#12 - 1989
DOCS

カナダニュース

Canada



発行 カナダ大使館

〒107 東京都港区赤坂7-3-38

■カナダ大使館へのお問い合わせは下記へお願いします。

- 本館 (03)408-2101
商務部・経済部・政治部
広報部・領事部 他
- 投資振興部 (03)479-0921~2
- 科学技術室 (03)479-5855
- トラベル・インフォメーション (03)479-5851
- 査証部 (03)403-9176~8
- 関税消費税局 (03)400-7137~8
- 大阪総領事館 (06)212-4910

Dept. of External Affairs
Min. des Affaires extérieures

20 1989

RETURN TO DEPARTMENTAL LIBRARY
RETOURNER A LA BIBLIOTHEQUE DU MINISTERE

12

1989年2月

ISSN 0912-0440

LIBRARY E A / BIBLIOTHEQUE A E



3 5036 01030041 9

日加科学技術協力——2

拡大する日加林産協力——3

マククリーンズ誌のカナダ12様——4

案内——5/6

建築——7/8

美術館——8

LIBRARY——9

クス——10/11

より——12

焦点

総選挙、保守党が圧勝

昨年11月21日に行われたカナダの総選挙で、マルルーニー首相の率いる進歩保守党が295議席のうち過半数の169議席を制して政権の座を守った。

これにともない、マルルーニー首相は選挙直後と1月に閣僚を入れ替えたが、クラーク外相、ウイリソン蔵相、クロスビー国際貿易相などの主要閣僚はそのまま留任した。

総選挙は、米加自由貿易協定の是非をめぐって行われたもので、選挙結果が判明した時点で、協定に異をとんでいた自由党のターナー党首および新民主党のブロードベント党首は民意に従うことを表明した。

今回の総選挙により、カナダ下院の議席配分は次のようになった。

	1984	1988	得票率
進歩保守党	211	169	43%
自由党	40	81	32%
新民主党	30	43	20%
その他	1	2	5%
合計	282	295	100%

州別では、進歩保守党が大票田のオンタリオ州で99議席のうち47議席、ケベック州で75議席のうち63議席を獲得したほか、マニトバ州とアルバータ州で勝利を収めた。

米加自由貿易協定が発効

10年間以内に相互の関税および非関税障壁を撤廃しようという米加自由貿易協定が、予定通り、1月1日に発効した。

米国の上下両院に続いて、昨年12月30日にカナダ側が批准承認手続きを完了、これに基づいて米加両国政府が協定批准書を交換し、期限の協定発効に間に合わせた。

協定は、85年9月にマルルーニー首相が提唱し、88年1月に同首相とレーガン米大統領が調印。カナダでは自由党などが反対したため関連法案の審議が遅れたが、この協定をめぐる総選挙で野党が敗退、一挙に批准手続きが進んだ。

読者リストを改訂します。

カナダ・米国間の貿易は、すでに

8割近くが無関税

となっており、協定

は残り2割の品目につい

て関税を段階的に撤廃するこ

とになる。協定では、中立的な

紛争処理機関を設けることになっ

ており、反ダンピングや相殺関税など

協定からんで問題を生じた場合、この機

関で解決が図られる仕組みになっている。

協定の成立により、カナダは2億以上の人口を有する米国市場に完全なアクセスが保障されることになり、その経済効果は測り知れない、というのがカナダ政府の考え。また同協定は、域外諸国を差別するものではなく、日本などにとってはむしろカナダを通じて全北米市場に進出できるメリットがある。

—加政府、昭和天皇崩御に弔意—

昭和天皇の崩御に際して、マルルーニー首相は、大要次のような弔辞を発表した。

「深い悲しみに包まれておられる皇族の皆様ならびに日本の政府および国民の方々に對し、心から哀悼の意を表します。

故天皇陛下の長期にわたるご在任の間に、日本国民は、20世紀最大の悲劇のひとつと最も輝かしい成功とを経験し、戦争で荒廃した日本を今日のような強大な民主主義国に再建しました。故天皇陛下は日本国の象徴として、その2千年に及ぶ文化遺産と今日のダイナミズムをつなぐ役割を果たされました。カナダは、新しい時代を迎える日本と、今後とも協力関係を保っていく所存です」

大喪の礼には、カナダを代表してジャンヌ・ソーベ総督とジョン・クロスビー国際貿易相が出席した。



M.G.I.A.

TO
à
The Under-Secretary of State
for External Affairs, OTTAWA (BFE)

FROM
De
The Canadian Embassy, TOKYO

REFERENCE
Référence

SUBJECT
Sujet
Canada News No.12

SECURITY
Sécurité
APR 17 1989
Unclassified

DATE
April 11, 1989

NUMBER
Numéro
485

FILE	DOSSIER
OTTAWA	
MISSION	56-13-1

ENCLOSURES
Annexes

DISTRIBUTION

BY POST

EXTOTT/PGP
PNR PNJ
BCP MINT
PND BKA
BCB BKR
PGB BTC
BKD BTD
BFL BKC
BCL BCM
BFD

Investment
Canada

Tokyo
offices of
Alberta Govt
B.C. Govt
Ontario Govt
Quebec Govt

Osaka ConGen

PARIS ROME
BONN BREEC
LDN WSHDC
FINOTT/
MCCUTCHAN/
IFD
PCOOTT/
HEBERT
PMOOTT/
PHILLIPS

... Attached is a copy of Canada News No.12, published on February 16, which features architecture in Canada and the Embassy staff directory. The issue contains the following articles:

Page 1: News Highlights

- General election.
- FTA becomes effective on January 1, 1989.
- Condolences on the occasion of the death of the Emperor.

Page 2-3:

- Co-operation in science and technology between Canada and Japan: cancer, biotechnology and other fields where cooperation is distinctively progressing.
- Expanding cooperation in forest industry and its equipments between Canada and Japan.

Page 4:

- Influential Canadians: "Six who made a difference", conclusion of the series from the Macleans's 1987 Honour Roll.

Page 5-8: Colour Features

- Canadian Embassy staff directory.
- Canadian architecture copied from Canada Reports.

Page 9: Trade Inquiry

- Unique art poster by Art Source, Ontario
- High class motor boat by Fairbanks Yachts Inc., British Columbia
- Popular pizza roll by Roles Sales, Ltd., Ont.
- Sugar cane honey by International Traders, Ont.
- Dressing ratio 95 percent: gold dresser by Knelson International Sales Inc., B.C.
- Underground investigation radar by URTEC Instruments Sales Ltd., Toronto
- Sea foods by K & N Fisheries Ltd., Nova Scotia

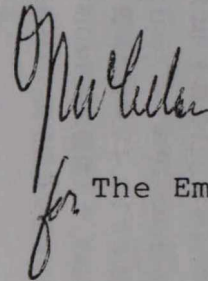
...2

Page 10-11: Topics

- Bristol Aerospace Inc. licensed Marubeni Inc. on sales of space observation rocket.
- Port of Montreal expanded due to increased cargo.
- Business seminar for Japanese executives offered by Univ. of Calgary.
- Japanese investment in Canadian news business Telesat Mobile Inc.
- Oldest fossil insect was discovered in Canadian eastern seashore.
- Drug education becomes mandatory in Ontario.
- Toronto dome to be completed this year.

Page 12: Embassy News

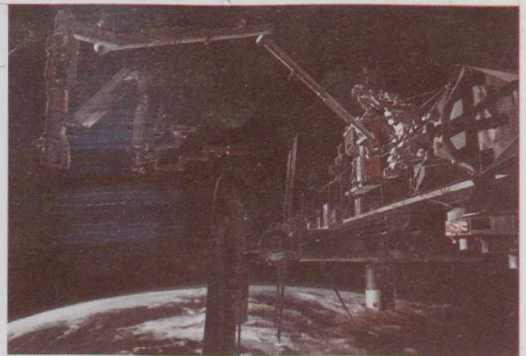
- Forestry mission from Alberta promote export.
- PROC VI in Montreal.
- 32 companies participates from Canada at FOODEX, Harumi.
- Platinum coins from Canada Royal Mint.
- Winners of Canadian studies awards.
- Upcoming events.



for The Embassy

日加科学技術協力

がん、バイオなど 4分野で積極推進



国際宇宙ステーション計画に参加するカナダ製カナダーム(想像図)。

スペースシャトルで最も微妙な働きをする部品を作ったメーカーは、どこか。チャレンジャーの悲劇の原因となった“O-ring”の問題を解決したのは誰か。現在、日本で一流のがん研究者数人が画期的な治療法を学んでいる外国はどこか。関東地方で最新のケーブルテレビを実施するにあたって、参考にしたのはどこの技術か。原子力発電所の稼働率が世界のトップ10位のうち1位から8、9位までを占めている国はどこか。答えは米国でも、日本でも、西ドイツでもなく、カナダである。

森と湖と赤毛のアンTMの国カナダは、いまや技術大国の仲間入りを果たした。それを可能にした一つの要因は、カナダが昔から研究開発を地道に積み重ねてきた点にある。カナダの大学や研究機関に毎年、外国からたくさんの留学生や研究者が応募してくるのを見ても、研究実績あるいはそれにもとづく教育が海外から高い評価を受けているのが分かる。

「イノベーション」戦略

カナダは、これまでアメリカの“出先工場”といわれていたように、民間部門のR&D投資は不活発だった。日本のR&D投資の80%が民間なのに対して、カナダのそれは50%に留まっている。

こうしたパターンは、急速に変化する世界経済のなかでもはや通用しないとの認識に立って、カナダ政府は1987年、技術革新を進める長期戦略を策定した。「イノベーション」(イノベーションとアクションの合成語)と呼ばれるこの戦略は、カナダの

強みをさらに強化し、弱点をカバーする、5本の柱からなる長期計画である。

すでに数次にわたる全国フォーラムを実施し、戦略分野への予算措置を終え、人的資源の配備・強化を手配するなど、いくつかの施策がとられている。

カナダと日本は、ともに科学技術を重視しており、互いに利益となるプロジェクトで協力しようというのは、自然の流れであろう。事実、両国間の公式協議はすでに12年の歴史を重ねているし、1986年の日加科学技術協定にもとづいて進行中の共同プログラムは、90件にも及んでいる。

重点は宇宙、がん、バイオなど

昨秋は2回目の日加科学技術協力合同委員会が開かれ、これまでの実績の検討と今後の方向について協議した。そこで合意した重要な点をいくつかあげると――

●人工衛星に関する協力 近く打ち上げられる宇宙科学研究所の地球観測衛星(EXOS-D)には、重要な観測任務のひとつ、光の波長を測定するために質量分析計が搭載されているが、このシステムの作成をカナダが担当した。カナダ国立研究所(NRC)の依頼でSEDシステムズ社(サスカトゥーン)がこの製作にあたった。

また宇宙開発事業団が衛星からのデータを受信・分析するのに、カナダのリモートセンシング技術が協力することになっている。

●がん研究に関する協力 日本のがん研究の第一線にいる高知医科大学の小川恭弘博士はいま、中間子がん治療法の研究でブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)

に在留している。UBCには、 π 中間子を発生させる大型加速器TRIUMFがあるからだ。両国の研究者は長年にわたりTRIUMFを媒介にして共同研究や情報交換を行ってきており、つい最近も日本政府は、超電導材料ソレノイドを数百万ドル分もTRIUMF用に提供した。TRIUMFは現在、超電導材料の開発競争で世界の注目を浴びている。

●航空宇宙に協する協力 人類に残された数少ないフロンティアのひとつ、宇宙。カナダはこの魅力的な分野を早くから重視してきたが、1988年に日本、米国、欧州とともに宇宙ステーション建設をめぐる国際協定に調印した。この計画におけるカナダの役割は、宇宙ステーションの組立、保守サービスを受け持つ移動サービスセンターの建設である。日本の実験モジュールにももちろんサービスする。

●バイオテクノロジーに関する研究 小麦やナタネの大生産国カナダは、穀物改良に長い歴史を重ね、成功してきた。日本とは遺伝子組み換え技術を利用したアルファルファや小麦、大麦の改良で協力する。

こうした技術協力には、互いに相手の新製品や新技術に対してオープンな態度をとれるメリットがある。例えば安全性、稼働率、コストの各面で世界一とカナダが自負している原子力発電のキャンドゥー炉は、日本にはまだ導入されていないが、電源開発(株)で原子力利用推進の一環としてキャンドゥーの技術研究が続けられている。そのほかカナダ原子力公社が核廃棄物の処理システムについて技術協力を行っている。

移動体通信でも協力

電気通信の分野では、絆が一層太くなった。民営化したNTTが、コンピューターその他の事務用通信の激増に対応して交換機の性能向上を図り、カナダのノーザン・テレコム社から最先端のデジタル交換システム(総額2億5,000万ドル)を導入したのである。NTTのネットワーク全体にかかわる重要な部分での提携であった。

日本の技術で生産多様化

――カナダの技術導入計画――

日本とカナダの科学技術協力には、日本からカナダへの技術の流れも当然多い。カナダ政府はむしろ積極的にこれを支援する政策を取り、1986年1月から技術導入計画(TIP)を実施した。カナダ大使館でも専門の担当官がカナダ企業(主として中小企業)の要請にもとづいて適切な技術を紹

介する。この2年間で10数件の技術移転が成立した。食品加工で用いる消毒剤の製造、バイオ技術を用いた椎茸栽培、ホタテの養殖あるいは日本酒の醸造など、日本の技術が、カナダの地で生かされようとしている。こうした企業に密着した生産技術は、もちろんカナダから日本へも導入されている。最近の例でいえば乳製品加工、医薬品製造、精密部品加工などがある。

そして今、日本が最もホットに取り組もうとしている移動体通信——この分野ではカナダは国内全域の船舶、自動車、航空機の通信を音声、データともにつなぐ移動体通信衛星(MSAT)を早くから開発しており、日本はこれに関してカナダの衛星通信会社テレサット・カナダと話し合いをすでに開始している。

木材から 林業機械まで

林産業の分野で日本とカナダの関係が、これまでの木材一辺倒から、機械利用の面でも協力の方向へと変化を見せている。

カナダは管理された森林だけでも日本の国土の9倍の面積、342万平方キロをもち、国内総生産の15%、製造業雇用の13%、輸出の17%を林産関連で占める林産大国である。そんなカナダで林業における生産性向上を図り、若い労働力に魅力のある仕事場とするために、造材産業の機械化がここ20数年、熱心に進められてきた。木を伐倒するフェラバランチャー、倒した木を集材するスキッター、枝を払うデリマー、積み込み・運材のローダーやトレラーといった大型機械がたくさん使われ、機械メーカーは林業会社と連携して、さまざまなタイプの森林に合った機械を開発した。

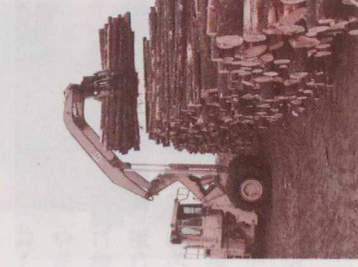
カナダの森林は、森林形態と伐採方法からみて大要4つのタイプがあり、機械化もそれぞれに合った態様をとっている。広葉樹と針葉樹の混在する小規模な私有林が多い大西洋岸と五大湖地方では、伐採、枝払いそれぞれに玉切りはチェーンソーを、集材にはもっぱら装輪式スキッターが使われている。林業と農業が一体化しているため、集材装置を取り付けた装輪またはキャタピラ付きトラクターも用いられている。

一方、小径針葉樹の立木が果てしなく広がるカナダ北方の平地林では、伐採した樹木を玉切りしてからでなく、元の長さのまま集材する方式をとり、積み込み・輸送費や玉切り費用の節約をはかっている。

ロッキーマウンテンを含むアルバータ州およびブリティッシュ・コロンビア州の内陸地方は、険しい地形とやや大径の樹木を特徴とし、日本の状況と似通っている。厳しい環境条件の下で急斜面から直径20~80センチの材木を伐採・搬出するのは難作業だが、急斜面ではスキッターに搭載したヤーダーを使用して、斜面の登り方向に作業する方

そのほかトロントなどの大都市で採用されている簡易型の電車(中量交通システム)も、東京や大阪の通勤混雑緩和に役立つだろう。これは三菱重工が代理店契約し、昨年春の埼玉博で試験的にお目見得した。超電導磁石のリニアモーターを利用した都市間交通システムも、実用化が現実の日程に上ってきており、日加間で協力の可能性が

拡大する日加林産協力



式が普及しつつある。

直径2メートルもある大木がうっそうと茂るブリティッシュ・コロンビア州沿岸では、林地が不安定な急斜面のことが多く、ハリカナ社のバラリアフトブーム。

ロープを用いる架線集材が主流である。

こうした多種多様な地形、樹木サイズに対応するために、カナダの機械メーカーはさまざまなアタッチメントを開発し、その



能率よく枝払いするテレスコピック・デリマー(デニ社)。

使い方に工夫をこらしてきた。装輪式スキッターと大型ケーブル・ヤーダーを除く大部分の機械は、堅牢で信頼性の高いアタッチメントを、輸入品のベースマシンに装着するようになっている。ベースマシンには日本製も多く使われている。

各地で日加林業機械技術セミナー(3月)

林業で機械を使うことの比較的少なかった日本では、国際競争力の強化が叫ばれるようになり、機械化への取り組みが本格化しようとしている。カナダ製の林業機械を民間で導入しようとしている北海道を中心に、各地の造材業者や研究者、政府関係者など120名からなる使節団(団長・林芳男北海道林務課長)を昨秋カナダへ派遣し、ケベック市郊外で開かれた国際林業機械展(DEMO 88)を視察したのも、その表

れのひとつであらう。

DEMO 88は、3年ごとに開かれるカナダの林業機械専門展示会で、昨年はカナダ、米国、日本、欧州から林業機械メーカー90社が出展した。ミッシオンに参加した人々は、同時に機械化のセミナーに出席したり、カナダの主要メーカーの工場や伐採現場を視察して、林業機械化の国際動向を熱心に学んだ。

日本側こうした積極姿勢を受けて、カナダ側も交流を促進したいとして、この3月、カナダの代表メーカー5社とカナダ産業科学技術省の担当官ら10名を日本に派遣、

大きいデリマーである。

大規模技術から多種多様な生産技術まで、日加両国の技術交流はようやく層の厚みを増してきた。

21世紀へ向かって技術が目もくらむ速度で進展している現在、両国間には一層緊密な連携が必要とされている。

(科学技術室長・カール・クンケ)

カナダ林業機械の技術セミナーを行うことになった。

この催しはカナダ大使館の主催(北海道では北海道庁との共催)で、各地の業界団体の後援を得ており、フェラバランチャー(伐倒)、スキッター(集材)、デリマー(枝払い)など、カナダの誇る林業機械が日本で使用される可能性について技術面から詳しく説明、検討する。北海道では美深の道有林で機械のデモンストラーションも行われることになっている。

セミナーの日程および会場

2月28日 広島(広島商工会議所)

3月2日 旭川(ホテルニュー北海)

3日 美深(デモンストラーション)

6日 帯広(宮本会館)

8日 札幌(KKR会館)

10日 東京(経団連会館)

セミナー参加企業

ティンバージャック社、ハリカナ社、デニ社、スカイリード社、メクフウォー社

(セミナーに関する問い合わせは、カナダ大使館矢部または横原まで)

何人知っていますか マクリーンズ誌の カナダ12傑

前回に続いて、カナダ各界の国民的人気者をご紹介します。前回はスポーツのスターや映画監督など華やかな人が多かったのに対して、今回は福祉事業家やプロモーター、少数民族の指導者など、地味で苦勞の多い活動や裏方に精を込めている人が多い。

■ 歌手・カナダ文化振興会会長 モーリーン・フォレスター



カナダ随一のクラシック歌手として有名なモーリーン・フォレスターだが、彼女はカナダ文化振興会の会長という重責も立派に果たした（最近交代した）。

フォレスターは最初、教会の聖歌隊で歌っていたが、1950年代にアメリカの指揮者ブルーノ・ウォルターに認められて、国際舞台に飛び出す。以来、コントラルト歌手として、北米各地をはじめ、ヨーロッパやアジアなどで公演してきた。

1983年に、アーティストや文化団体の助成機関・カナダ文化振興会の会長に就任してからは、同振興会の独立性を守り、アーティストの地位向上を図り、カナダ文化を発展させることに、エネルギーを注いできた。彼女はまた、オンタリオ州にあるウィルフレッド・ローリエ大学の総長も兼ねている。

■ ケベック出身の劇作家 ルネ＝ダニエル・ドゥボア

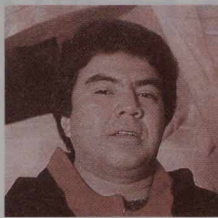


いつもにこにこして、当たりのやわらかいルネ＝ダニエル・ドゥボアだが、柔和な表情の裏には、驚くような能力や闘志が秘められている。劇作家ドゥボアは、その超現実主義的な作品の中で、現実世界がもつ危険性を警告する。昨年4月にトロントで公演された「クロードとの生活」は、同性の恋人を殺した

男娼に対する警察の取り調べをテーマにしたもので、ニューヨークで朗読されたときは、観客が劇場を埋め尽くした。

ドゥボア自身は、こう述べている。「ケベック人もカナダ人も、あまりに安楽すぎる。ぼくは、カナダ以外の国々における苦痛や苦難に無関心でおれるという彼らの考えに挑戦しようとしているだけだ」

■ ハイダ族の指導者 マイルズ・リチャードソン



数年前、マイルズ・リチャードソンはハイダ族の伝統的なポットラッチ儀式に参加して、ハイダ族の名前をもらった。族長がポットラッチの儀式を行ない、名前を授けたという事実は、彼がハイダ族からいかに尊敬されているかを示している。

リチャードソンの大きな功績は、ハイダ族協議会の指導者として、2年間にわたり、木材会社や連邦政府およびブリティッシュ・コロンビア州政府に対して、クイーン・シャーロット島の南半分に広がる先祖伝来の土地を守り、伐採を中止させる闘いを展開し、成功させたことにある。

1987年7月、マルルーニー連邦政府首相とバンダーザームBC州首相は、一帯を永久に雨林の残る国立公園用地にするという趣旨の、総費用1億6千万ドルの協定書に調印した。

■ 夢のホッケー国際大会を実現させた マルセル・オビュ



1987年2月。凍つくケベック市に、クライスラー社のアイアコッカ社長、ピエール・カルダンといった世界の超有名人が集まった。ソ連の赤軍コーラスが歌い、ポリショイ・バレエ団が踊り、そしてカナダ、米国、ソ連のアイスホッケー・チームが火花を散らす「ランデブー87」を見るためである。この祭典を組織したのが、マルセル・オビュ。モントリオール・カナディアンと並ぶナショナル・ホッケー・リーグ(NHL)の雄ケベック・ノルディック・チームの会長である。オビュ氏はこの祭典を実現させるために、モスクワでシェワルナゼ外相とじかに交渉した。

同氏が辣腕をふるったのは、これが最初ではない。1979年にはワールド・ホッケー

協会とNHLの合併を実現させ、1984年にはこれまで1テレビ局が独占放送していたNHLのゲームを開放して、各チームの収入を増大させた。

次の夢は、「冬期オリンピックをケベックで開くこと」だという。

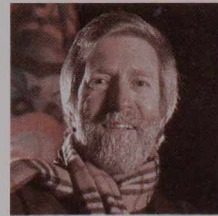
■ スポーツ着チェーンの経営者 シルビア・レンベル



カルガリー冬期オリンピックでカナダの選手、役員、ボランティアおよそ1万人が着たスポーツウェアには、すべてサン・アイス社のマークが入っていた。1982年と1986年にエベレスト登頂をはたしたカナダの登山隊が着たのも、同社のスポーツウェアである。

スポーツウェアおよびレジャーウェアでは北米有数のメーカーとして知られるこのサン・アイス社は、1950年代始めに西ドイツから難民としてアルバータ州に移住したシルビア・レンベルさんが一代で築いた会社だ。仕事の虫で、現在も同社の製品のほとんどは彼女がデザインする。製作現場で常に目を光らせている彼女を、従業員は「鷲の目」と呼ぶ。

■ 新しい方法で貧民救済 マーティン・コネル



1980年にインドのカルカッタを訪れた際、パキスタン内戦による難民の集結場に出くわした夜を、マーティン・コネルは忘れない。「暗やみの中で見えるものといえば、小さな焚火とその回りにうずくまった家族たち。薄気味悪く、またショックででした」

第三世界で見たこうした光景が、コネルに大きな影響を与えた。コンウェスト開発会社の会長である彼は、1983年、自らの資金45万7千ドルを注ぎこんで、新しいタイプの経済開発を行うキャルメドウ・チャリタブル財団を設立した。途上国の零細企業に少額の援助をすることによって、地域の経済を改善しようという発想からである。

連邦政府の対外援助機関であるカナダ国際開発局の支援を得た同財団は、2年間にブラジルとメキシコで20万ドルを零細企業援助にあてた。1987年には、コロンビアでも同様の援助計画を開始した。

カナダ大使館 職員案内

大使館 〒107 東京都港区赤坂7-3-38 TEL.03-408-2101
 総領事館 〒542 大阪市中央区西心斎橋2-2-3 第三松豊ビル12階
 TEL.06-212-4910 FAX.06-212-4914



バリー C. スティアーズ(大使)
Barry C. Steers



スティーブン H. ヒーニー(公使)
Stephen H. Heeney
政治・領事・科学技術・査証・広報・
総務・防衛関係統括



デービッド・ウィンフィールド
(公使/経済・商務担当)
David J.S. Winfield
商務・投資・経済・金融・関税関連統括

広報・文化部



デービッド J.
マクラレン
David J. McLellan
(参事官)
メディア関係、広
報・文化統括



デービッド・
アニード
David Anido
(文化アタッシュ・
Ph. D.)
文化交流



ポール・ヘンリー
Paul Henry
(一等書記官)
姉妹都市・スポ
ーツ・学術交流



吉田 健正
Kensei Yoshida
(学術交流担当)
学術交流



小松 誠
Makoto Komatsu
(広報・メディア担
当顧問)
メディア関係・広
報誌



多昌 広蔵
Kohzo Tasho
(広報官)
スポーツ交流、姉
妹都市交流、催し
物



縄田 明子
Akiko Nawata
(文化アシスタ
ント)
ビジュアルア
ーツ、映画、テレビ、
ラジオ



山田 栄一
Eiichi Yamada
(広報アシスタ
ント)
カナダ、一般問
い合せ、留学



小松 博
Hiroshi Komatsu
(司書)
本、フィルムの管
理・貸出



ジョセフ・キャロン
Joseph Caron
(参事官)
国内政治動向、
日本の対外政策、
政治部統括



イバー H. ライス
Eber H. Rice
(参事官 Ph. D.)
日本の対外政策・
社会問題



スチュワート・
ヘンダーソン
W. Stewart
Henderson
(二等書記官・副
領事)
日本の対外政策、
労働関係

国会担当



水口 洋
Hiroshi Mizuguchi
(政治アナリスト)
政治動向、社会・労
働問題、議員交流



ブルース・
バーネット
Bruce L. Barnett
(参事官)
国会議員との連
絡、日加議員交流



テレンス C.
ミルン
Capt. Terrence C.
Milne
(武官)

武官



カール・クンケ
B.C. Kuhnke
(参事官)
科学技術関係統括

科学・技術部



平 康邦
Yasukuni Taira
(技術開発官)
技術取得・移転



戸部 敬哉
Yukiya Tobe
(技術開発官)
技術取得・移転



佐伯ひろみ
Hiromi Saeki
(科学技術アナリ
スター)
情報収集・分析



阿部のり子
Noriko Abe
(情報・訪問コー
ディネーター)
情報収集・訪問
コーディネーシ
ョン

総務部



ロバート P.
アーシャンボー
Robert
P. Archambault
(参事官兼領事)
総務統括



ロバート・
ダンシース
Robert
R. Dunseath
(二等書記官兼副
領事)
財産管理及び一般
総務



八木 昭男
Akio Yagi
(管財官)
財産購入及び管理

管財

財務



C.A. ジンマーリング
C.A. Zimmering
(アタッシュ、財務官)
財務・予算



伊藤 喜一
Kiichi Ito
(副財務官)

人事

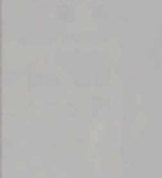


東 忠行
Tadayuki Azuma
(人事官)

査証・領事部



ジョン・ミゾブチ
J.J. Mizobuchi
(参事官兼領事)
移住・訪問政策関
係、事業移民、退職
者移住、日加ワー
キング・ホリデー



ジェリー・アギシ
Gerry G. Agis
(一等書記官兼領事)
領事、パスポート
発行、公証、市民権
関連



ロン・マッケイ
Ron E. McKay
(移住担当官)
訪問ビザ



永野 一郎
Ichiro Nagano
(移住担当官)
学生・雇用認可



中本 宏
Hiroshi Nakamoto
(領事官)
領事、パスポート
発行、公証、市民権
関連

新庁舎業務



キース・プラウマン
Keith Plowman
(参事官)



ビクター・マルコ
Victor Marko
(アタッシュ)
副プロジェクト担
当官

商務部



ジョン・トレレバン
(公使参事官)
John Treleaver
商務部統括



矢部 審次郎
Yasujiro Yabe
(商務官)
重機械・機器貿易



斎藤 純
Jun Saito
(商務官)
観光促進、観光開
連投資促進



ケン・
マクフェール
Ken McPhail
(関税官)

農水産・食品・一般消費財



ゴードン・
パーソンズ
Gordon Parsons
(参事官)
農水産、食品、一般
消費財統轄



山岡 良平
Ryohei Yamaoka
(商務官)
自動車、自動車部
品、航空宇宙、防衛
産業



マイケル・
ハワード
R. Michael Howard
(投資特別顧問)
投資促進、産業開
発



マーシャル・
バジエ
Martial Page
(関税官)



ジェラルド・ミロ
Gerald Milot
(参事官)
一般消費財、教育
機器



佐治 吉彦
Yoshihiko Saji
(商務官)
電気・電子機器貿
易



ブライアン S.
ウィルキン
Brian S. Wilkin
(一等書記官)
投資促進、産業開
発



新井 充
Mitsuru Arai
(関税アナリスト)



ウェイン・ハウス
Wayne House
(一等書記官)
穀物、油糧、農産物



玉井 祥夫
Yoshio Tamai
(商務官)
バイオテクノロジー、
化学製品、
ファインセラミッ
クス



清原 史朗
Shiro Kiyohara
(商務官)
投資促進、産業開
発、カナダ原子力
公社(キャンドウ
炉等)、日加経済人
会議



上野山 輝二
Teruji Uenoyama
(関税アナリスト)



鍵 譲
Yuzuru Kagi
(商務官)
穀物、油糧、牛・豚
肉



ジョン・
クラッセン
John Klassen
(参事官)
エネルギー・天然
資源統轄



ブライアン・
ハンブルトン
Brian Hambleton
(参事官)
国際経済、2 国
間経済・貿易協議、
経済・金融統轄



箱田 善哉
Yoshiya Hakoda
(関税アナリスト)

天然資源・エネルギー



松永 宏
Hiroshi Matsunaga
(商務官)
加工食品、フード
フェア、酪農品



マッケンジー・
クラグストーン
Mackenzie Clug-
ston
(二等書記官)
林産品、建築資材、
ハウジング



ブライアン・スミス
Brian Smith
(参事官)
2 国間金融関係、
資本取引、税制、輸
出金融、政府開発
援助

カナダ総領事館



マイケル・
スペンサー
Michael C. Spencer
(総領事)
総領事館統括・投
資振興・広報・観
光・経済・政治



中井 正男
Masao Nakai
(商務官)
水産



福田 誠一
Seichi Fukuda
(商務官)
エネルギー、金属、
鉱産物、石油、天然
ガス



フランソワ・ナド
Francois Nadeau
(一等書記官)
2 国間経済問題、
多国間経済問題、
農水産関係、自動
車協議ほか



ピーター・ドラブル
Peter H. Drabble
(領事兼商務官)
商務統括・高度技
術製品・バイオテ
クノロジー・投資
振興・関西国際空
港プロジェクト



金子 功
Isao Kaneko
(商務官)
一般消費財、カナ
ダ・トレード・セン
ター、地域・トラ
ード・ショー



矢崎 安弘
Yasuhiro Yazaki
(商務官)
林産品、建築資材、
ハウジング、ログ
ハウス



ヘイグ・
オヒーガン
Haig Oghigian
(二等書記官)
日本経済全般の分
析



デービッド・
ノッカート
David Knockaert
(副領事)
領事・総務・移住・
関税



マイケル・
スティンソン
Michael G.
Stinson
(参事官)
高度技術製品統轄



ジョン・バーチェル
John Burchell
(参事官)
観光全般統轄



岩田 昌治
Masaharu Iwata
(エコノミスト)
日本経済の動向分
析、貿易・投資統計



梅谷 陽治
Yoji Umetani
(商務官)
水産・食品・毛皮・
衣料・消費財



デービッド・
ディックス
David Dix
(一等書記官)
自動車部品・サー
ビス機器、船舶・港
湾



鈴木 富雄
Tomio Suzuki
(商務官)
観光促進、観光開
連投資促進



ゴードン・バロー
Gordon Barrow
(関税アタッシュ)
関税統轄



堀内 義雄
Yoshio Horiuchi
(商務官)
工業製品・天然資
源・投資振興



ディアナ・
ホートン
Deanna Horton
(二等書記官)
バイオテクノロ
ジー、化学製品、
ファインセラミッ
クス



横山 修
Osamu Yokoyama
(商務官)
観光促進、観光開
連投資促進



ジョージ・ショ
ンホッフアー
George
Schoenhofer
(関税官)

投資振興

経済・金融部

関税部

高度技術製品

カナダの建築



多様性と周辺環境との調和

ハリアツクアスのシエラ・ホテル (左端)。

建築というのは、おそらく芸術と技術の究極的な組み合わせと言えるだろう。建築はまず創造力から派生して、文化、環境および時間の巧みな芸術的表現として具現化する。同時に、創造力と芸術的表現力が実際の建築物となるためには、気候や費用、空間に対する配慮と建築技術が不可欠である。機能性と美観をどううまく合体させるか——カナダの建築家たちは、多様な地理、気候そして文化をもつ国にあって、この課題に挑戦し、多くのすぐれた作品を生んできた。

例えば氷点下の真冬でも一定の気温が保たれ、かつ魅力的なシヨビソグ・モナルを激しい風や寒さに耐え、しかも端正な美しさをもち北極の住宅。建築は、その国の歴史と文化の恒久的な遺産でもあるが、その点でもカナダは恵まれている。太平洋沿岸インディアンの独特な建築芸術を今に残すプリチャム・コロビエワ大学の民族博物館、英国植民地時代の情緒を醸し出す東部カナダの歴史的建筑物、ケベックの農村に残る旧荘園領主の邸宅、そしてカナダの多民族性を象徴するさまざまな教会や寺院が、そのことを如実に物語っている。

過去と現在、都市と農漁村の建築スタイルが共存しているのも、カナダの特徴。前者の例として19世紀の形式とポストモダンデザインをブレンドしたミシサガ市(トロント郊外)のシナイホール、後者の例として強い潮風に耐えるよう大西洋沿岸の岩陰に建てられた窓の小さい“箱”家、広大な土地を利用した大平原の大きな平屋、豊富な木材を利用し、周辺の景色が存分楽しめるようにしたウエスト・コーストの棟高・広窓の山荘、斬新な設計と新しい工法で建てられたオウキヌス・ビルなどに、カナダの建築の多様さが窺える。

近隣の歴史に配慮

カナダの建築界における現在のキーワードは「周辺環境との調和」である。これは、単に周囲の色と同レベルンガや、周囲にマッチした窓やドアを用いるだけでなく、周辺にある建造物の規模や容積、その地域の建材や建築様式、近隣の歴史などを考慮して建築物を設計する、というにはかならない。例えばバスコスミア州ハリアツクアスのシエラ・ホテル。同ホテル・チェンソンが全世界に顧客をもっていることを考えると、設計者は豪華な、しかし没個性の高層ビルを建てる誘惑に駆られても不思議はない。しかし、設計を受け持ったハリアツクアのライオン・リソチ社はウオーター・フロントという立地条件(南側には18世紀から19世紀にかけての埠頭が再現され、レストランやいろいろな店、そして芸術学校が並んでいる)にマッチした設計にした。

ホテルはUの字の形になっていて、ちょうど埠頭のように海に突き出ている。高さも、“埠頭”らしく、7階におさまっている。材料は、地元メーカートと相談して、外壁にハリアツクアスの歴史に合う花崗岩の色、手触り、密度、それにまだら模様を彫り、埠頭の切石やここにかつて建っていた建物の雰囲気にならなく調和させている。

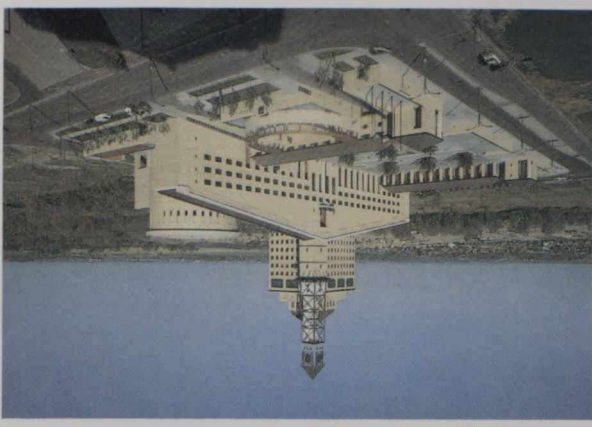
モントリオールの各地に散らばっていたケベック大学を、市内の中心地にまとめるにあたっての課題は、ノートルダム・カトリック寺院など周辺の由緒ある建物と調和させながら、いかにして近代都市にふさわしい雰囲気を出すか、という点とであった。

高くして、それぞれの通りの他の建物と同じ高さにし、敷地内にあったサン・ジャック教会の尖塔と南側翼廊をそのまま残し、大学の隣にあるノートルダム寺院のデザイン・ホームを隣接するララス式公園群に統合した。大学はベージュ色のレンガを張った鉄筋コンクリート建て。正面は張り出し窓やバルコニーをあしらって、近隣の伝統的な雰囲気に合わせ、表通りに面した部分は近代的な造りにするとともに、ノートルダム寺院の尖塔や切石によって過去との対称感を見せた。

もしも依頼すべき周辺環境がないときはどうしたらいいだろうか。例えば、都市が急成長して、これまではほとんど何もなかったところに公共の建物を建てる場合は？

地域の産業を加味

トロントのジョーンス・ランド・カークランド建築事務所が、ミシサガ市から新しいシナイホールの設計依頼を受けて直面したのが、まさにその問題だった。建築家たちは、畑のど真ん中にある建設予定地について、周辺の歴史や環境を調査した。その結果、19世紀オントリオの公共建築を想起させる時計塔と銅板屋根のビラミッド状建物、それに地域の伝統的産業を反映させる典型的な農家風の建物を組合せることにした。伝統的なのは外観だけで、一歩中に入るター、リクレシヨン施設、円形劇場、美術館、集会場ありで、現在どころか、21世紀の市民のニーズを先取りした設計になっている。シナイホールは、カナダ有数のポストモダン建築として、内外から称賛を浴びている。



19世紀オントリオの農場に似せたミシサガ・シナイホール

カナダの建築を語るとき、トロント・イートン・セクターを忘れてはならないだろう。このシヨビソグ・セクターは、1979



全天候型のトロント・イートン・センターは地好の待合場所。

年にオーブンして以来、お客が引きもきらず、現在は週150万人の地元買物客や観光客が訪れている。センターは、買物だけでなく、観光や待合の場所としても大いに利用されているが、建物の設計が少なからぬ役割を果たしていることは間違いない。

ひとつには、このショッピング・センターがカナダ有数の目抜き通りとして知られるヤング・ストリートに面している、という恵まれた立地条件もあるが、成功の秘訣のひとつはやはり周辺環境と調和した設計にある。

設計を担当したザイトラー・パートナーシップ社は、まずヤング・ストリートに沿って長さ270メートルの3階建て、ガラス張りの回廊を造ることにした。この屋内道路には、樹木あり、ベンチあり、バルコニーやテラス、あるいは橋や庭、噴水ありで、まるで戸外の公園つきショッピング街。

全天候型で、温度調節がされているだけ、この方がいいのかもしれない。

自然光を何倍にも利用

昨年2月、カルガリーで開催された第15回冬季オリンピック大会で、アイスホッケーやスケート種目が繰り広げられたオリンピック・オーバルがひととき人目を引いた。

地元の建築家グレアム・マックコートが設計したこのオーバルは、3つのスケート・トラック、2つの陸上競技用トラック、2つの国際競技用ホッケー・リンク、それにサエイト・トレーニング・センターを擁する、総面積25,200平方メートルの巨大な卵形建造物だ。カルガリー大学の構内において、訓練中のスポーツ選手の状態を大学のスポーツ・コンピューター・センターで把握できる。

オーバルは、自然光を利用できる建物としては、世界でも最大の部類に入る。建物を取り巻く窓々の下に、宇宙を飛行したスカイラプでテストされた反射光棚が設置されていて、内部へ入る自然光の量を増やす役割を果たす。窓はまた、リンクがあたかも屋外にあるかのような錯覚を与える。

オーバルは、その規模にもかかわらず、高さは周辺の建物と同じぐらいしかない。しかも、巨大な屋根があたかもカットされたダイアモンドにも似て、空から見るとカルガリーの風景にきれいに溶けこんでいる。荒涼として静寂な北極には、また北極ら

しい建築が必要だろう。イグルーリク島に建てられた、鉄とファイバーグラス製の北極研究所が、ひとつの解答を示してくれる。研究所はきのこの形をした2階建てで、一階は出入口、収納庫、機械室、研究室などとなっている。厳しい気候条件に合わせて、断熱スラブ、ファイバーグラス強化プラスチック板などの新しい材料が使用されているだけでなく、北極の伝統的な住宅ともいえるイグルーに似せて、幾何的な美しい線を強調したのも大きな特徴だ。

インディアンの伝統を継承

太平洋沿岸には、一部の建築家から“最もカナダ的”といわれている建築物がある。ブリテイッシュ・コロンビア大学の構内から太平洋に向かって建つ、太平洋沿岸インディアンの宝物殿ともいえる民族博物館だ。世界的な建築家アーサー・エリクソンによるこの博物館は、歴史的なインディアンの文化の伝統を守って、林の中に建てられている。床から天井まで広がる窓からは遠くに太平洋や日没が臨める。柱と梁を強調したのも、かつての太平洋沿岸インディアンの建物を彷彿させる。



ブリテイッシュ・コロンビア大学の民族博物館

サフデイは、この建物を、それぞれ独特の性格と空間性をもった一連の小さいパビリオンからなるものとして構想した。美術館を訪れる人たちが、展示された作品を気持ち良く観賞できるようにするためである。公共のスペースは、美術館や博物館に通じる通りや回廊のように活気に満ちた、祝賀的なムードをだしているが、展示場は美術品そのものが関心の中心になるように静かな雰囲気を出している。

自然光や空間をうまく採り入れたこの美術館では、宗教彫刻、グループ・オブ・セブンの絵画、イヌイットの彫刻、最近のビデオ芸術といったカナダの美術作品を中心に、世界各地の作品が展示されることになっている。館内には、劇場や図書館、構堂、セミナールームなども備えられている。

新しい空間経験を与える 国立美術館



首都オタワのオタワ川とリドー運河が交差するあたりに、ガラス張りのコロネード（柱廊）と幾何学的なネオゴシック風の塔が一際目立つ建物が建っている。

国際的な建築家モジュー・サフデイが設計し、昨年5月にオーブントしたカナダ国立美

術館だ。

近代建築の型にはまらない、さまざまな空間経験の調和的組合せともいえるこの建物は、外観はもちろん、内部の配置も事務所ビルを転用した旧国立博物館とは雲泥の差がある。



TRADE INQUIRY

ここに紹介するのは、日本と新たに輸出、輸入あるいはその他の提携関係を希望するカナダの企業や自治体です。これらの件についてご関心のある方は、カナダ大使館の各担当者（不在の場合は商務部レジストリー・小林）、または直接現地へお問い合わせ下さい。

ユニークなアート・ポスター

Art Source

210 Cochrane Drive, Unit 2,
Markham, Ontario CANADA L3R 8E6
Tel:(416)475-8181

カナダでは絵画をインテリアとして飾るのを好む家庭が多い。印刷複製品もかなり多く使われ、質の高い複製が作られている。アート・ソース社の制作するポスターは、カナダの現代美術を中心に、車や食品、あるいはユーモラスなテーマの写真・イラストなどを幅広く揃えており、コレクションにしても面白い。

米国やメキシコ、英国、西独、スペイン、香港、オーストラリア、ニュージーランドなどに輸出されている。日本にも輸出実績があるが、同社では販路の一層の拡大を望んでいる。（消費財担当・金子）

ハンドメイドの高級モーターボート

Fairbanks Yachts Inc.

4720 Cowley Crescent
Richmond, British Columbia
CANADA V7B 1C1
Tel: (604)273-3955

創立8年のボートメーカー。高級、手作りの方針を守り、品質維持の範囲内で生産している。ファイバーグラス製のスポーツフィッシング・ボート（8.5m）やセダンブリッジ・クルーザー（9.7m）を多く作っている。新製品にはツインエンジンの32 Aft Cabin や28 Sunbridge などがあり、近く全長12mの大型タイプを出す予定もある。

同社はディーラーの利益を大切にすユニークな販売制度をとっており、ウエストコーストやフロリダで成功を収めている。

（消費財担当・金子）

カナダで人気のピザロール

Food Roles Sales(Niagara)Ltd

8464 Earl Thomas Avenue, Niagara Falls, Ontario,
CANADA L2E 6X8
Tel:(416)358-5747
Fax:(416)358-5746

グリーンペッパー、オニオン、マッシュルーム、セロリ、モツァレラチーズを小麦粉の皮で包み、さっと揚げて冷凍した、い

わばイタリア料理を中国風にアレンジした食品。オープンやトースターで焼いて食べるとおいしい。（食品担当・松永）

業務用原料のシュガーケーン糖蜜

International Traders

PO Box 71, Station A, Weston, Ontario,
CANADA M9N 3M6
Fax:(416)244-0807

砂糖キビ糖蜜の固形、ペースト状、液状製品。アルコール製造用、発酵用、甘味用、フレーバー用として。（食品担当・松永）

回収率95%の金選鉱機

Knelson International Sales Inc.

20313-86 AVENUE, R.R. #11, LANGLEY, B.C.
CANADA V3A 6Y3
Tel:(604)888-4000 or 421-3255
Fax:(604)888-4001

世界第2位の金産出国カナダならではの簡便で効率の高い金選鉱機ネルソン・コンセントレーターの販売代理店を求めている。

このコンセントレーターは、基本的には高速遠心分離装置で、最新の重力回収システムを採用したものである。周囲を蛇腹様にした円錐形の筒に、掘りだした土砂（スラリー）を入れ高速回転させる。金など重い物質は蛇腹のミゾに集積する。蛇腹にはさまざまなサイズの穴があいており、ここから高圧の水が注入されることによって、ミゾに溜まった物質も固まらず、最終的に金は大きな重力をかけられて穴から排出される。ただしネルソン・コンセントレーターで扱える土砂の個体サイズは、6ミリ以



コンセントレーターをいくつか組合せたマルチユニット・タイプ。

下。回収可能な金のサイズは6ミリから数ミクロンまでと広いため、土砂中の金の95%以上を回収できる。

一回分のフィード量は限度（機種によって異なる）以下なら自由、粘土や黒土も可、砂鉱床や沖積土、硬い岩石地の採鉱場でも利用できるなど、利用範囲はきわめて広い。また研究室でも活用できる。

（鉱物資源担当・福田）

地下探査レーダー

URTEC Instruments Sales Ltd.

129 Telson Rd., Markham,
Toronto, Ontario L3R 1E4
Tel:(416)475-1133
Fax:(416)475-9840

アーテック計測機器販売社が開発した地下探査レーダー「パルス・エッコ」は、地表から地下50メートルまでの表土や岩盤の様子を詳しく探ることができる。

このシステムは、低周波パルス・レーダー信号と高度デジタル・プロセッシングを利用したもので、岩層構造、遺跡などの埋没物や断層の位置、毒性廃棄物による地下水汚染の範囲などが、鮮明な画像で表わされる。工事現場の調査や遺跡調査、資源調査、鐘乳洞探索などに威力を発揮するはずだ。調査員2人で手軽に、しかも敏速に扱えるのも魅力。

また同社の「ブラストメイト」(DS-477)は、爆破やパイル打ち、あるいは自動車通行などによる地下振動や空中波衝撃を探知・分析する。カナダでは、爆破による既存構築物への被害を防いだり爆発物の効果を高めるのに利用されている。

（エレクトロニクス製品担当・佐治）

活ロブスターやウニ

K&N Fisheries Ltd.

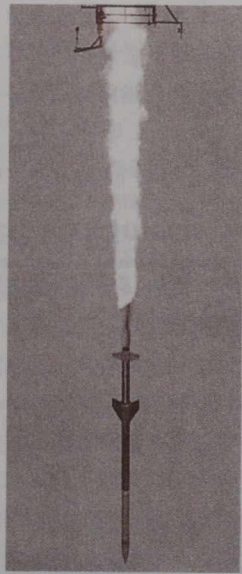
Port Latour, Nova Scotia CANADA B0W 3N0
Tel:(902)768-2478
Fax:(902)768-2385

日本に対する輸出実績のある活ロブスターに加えて、大西洋ウニ（グリーン）の輸出にも意欲的。（水産担当・中井）

日本で観測用ロケットを売込み アリストル社が丸紅と提携

フニバ州ウイニベグにあるアリストル・エアロスペース社は、このほど丸紅(株)と代理店契約を結び、日本の宇宙科学観測や、宇宙での微小重力を利用した材料実験プログラム向けに、観測用ロケット「フック・フランク」の売込みを開始した。

アリストル社は、NASA(米航空宇宙局)をはじめ、各国の航空宇宙機関で利用され、これまで微小重力実験やオーロラ研究、深宇宙観測などを目的に、1962年以来700本以上の打ち上げ実績を上げている。最近では、チキサス、メーサーとイデオロップの2つの微小重



と上米打ち上げ回数88回、重量微小重力実験のNASAロケットの材料を研究して打ち上げられるロケットの構造を詳しく説明する。

力実験プログラムでも使用された。

フック・フランク・ロケットには、開発中の4段・高性能ロケット「BB12」を含む直径44センチ型の観測用ロケット4種がある。フック・フランク・ロケットは重量70kgのものを150kgから1,500kg以上の空に打ち上げることができ、最高18分の観測を可能にする。

アリストル社のスペース・システム・グループは、ロケット本体のほか、打ち上げに必要なさまざまな支援システムやサービスを提供している。例えば打ち上げ装置は普通の固定式発射台だけでなく可動式発射台も用意しているほか、ボータアル・ペイロード交換装置や予備通信モニター・システムなども自社製造し、実験の可能性調査や実験結果の分析なども行っている。

モントリオール港を拡張 貨物扱い量の増大に対応

カナダ最大のコンテナ港であり、北米東海岸で2番目に重要な港として知られるモントリオール港(写真)は、ここ10年間、コンテナ取扱量が年平均13.1%の割合で増えてきた。

今後、伸び率は漸減するものの、それでも同港のコンテナ取扱量は西暦2010年までに2010年までにおよそ180ヘクタールの大きさになる。

新鮮な北米経済の切り口

カリリ大学主催 日本人管理職向けビジネス・セミナー

第1回受講生 田口堯雄

カリリ大学インテグレーション・セクターは、同大学経営学部およびパソ・スクール・オブ・マネジメントの共催を得て、昨年から日本人管理職を対象としたビジネス・セミナーを開始した。

8月31日に歓迎会を兼ねたオリエンテーションがあり、翌9月1日からセミナーがスタートし、9月20日のお別れ会兼同窓会発足パーティーで終了するまでの3週間で、北米に進出を図る日本企業の管理者に焦点をあてたコースが実施された。

コースと講義を組み合わせた興味ある内容のコースに参加したのは、日本人受講者7名とコロンビア大学としてアメリカバーク郡政府東京事務所の中野サ子さんが最初。2週間をカリリ大学で受講し、次に世界最大規模を誇るエドモントン・ウエスト・ショッピングモールの見学と実地学習、パソ・セクターで11名の

コースでは、日加間のホットなテラスカッシュン、課外活動での親善を通じて貴重な情報交換を愉しんだ。

カリリ、パソともにすばらしい自己満足の恵みがあり、課外活動、フイジカル・コースの

コースの

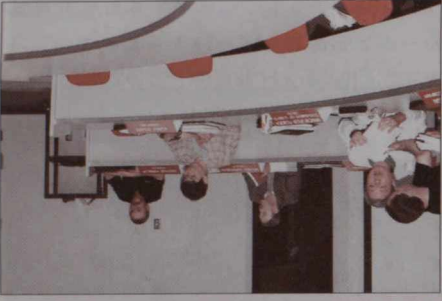
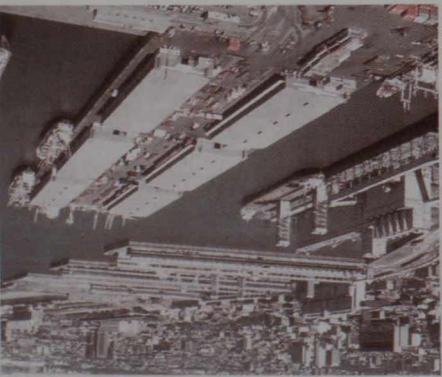
コースの

コースの

コースの

コースの

でに昨年の550万トンから1,300万トンに達し、貨物取扱総量は3,500万トンを超えるものと予測されている。そこでモントリオール港公団では、こう「2010」という今後20年にわたる開発計画のもとに、モントリオール南岸に150ヘクタールの土地を購入して面積を現在の2倍に拡大し、ターミナル施設を拡張、改善することになった。公団では、1992年までに1億2,000万ドルを投じて、コンテナ・ターミナルを拡張し、港内鉄道を延長し、穀物倉庫を拡充する計画。これにより、モントリオール港のコンテナ処理場は現在の55ヘクタールから2010年までにおよそ180ヘクタールの大き



早朝トレーニングである。ここでは、名トレーナーのフクター・ジョージ・キニアが指導するフイジカル・フイジナル・プログラムが組まれており、冬期オリエンテーションに整備された設備をフルに使って、フクター・キニアが受講生全員にフイジカル・フイジナルの理論を講義しながら、柔軟体操と軽いジョギングを柱とした運動で心地よい汗をかかせてくれた。おかげで毎日良い体調その日のプログラムに没頭することができた。この企画がこれからも成功裡に続行し、多くの同窓生を生み出し、日加親善に役立つと同時に、受講生の中から北米で活躍するエグゼクティブが多数生まれることを期待する。(セイコー電子工業勤務)

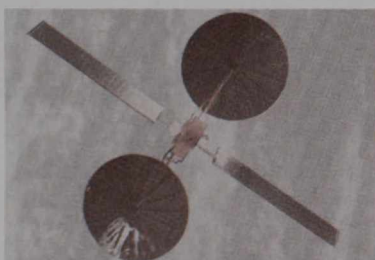
衛星利用の移動体通信事業 カナダの新会社に日本が出資

衛星を利用して自動車や列車、航空機、船舶など移動体との通信を行なう移動体通信事業で、カナダと日本の企業が提携することになった。

カナダの半官半民の通信会社テレサット・カナダとカナダ最大の民間複合企業カナディアン・パシフィックが設立する新会社テレサット・モバイル(略称 TMI)に、伊藤忠商事を中心に日本郵船、西濃運輸など5社からなる企業連合が資本参加する。

資本金は1億カナダドル(約100億円)で、出資比率はテレサット・カナダ50%、カナディアン・パシフィック30%、日本連合20%。

計画では、新会社は3億6,000万カナダドル(約360億円)を投じて、移動体向けの専用衛星を打ち上げ、1993年からカナダ国



打ち上げが予定されている移動体通信衛星。

内と沿岸地域で移動中のトラックや船舶、航空機などを音声やデータで結ぶ通信サービスを開始する。これにより、現在の自動車電話、移動無線システム、あるいは通信衛星から地上局経由の通信システムは、新しい時代を迎えることになる。

TMIでは、米国で移動体通信事業を計画しているアメリカン・モバイル・サテライト・コンソーシアムと相互協力契約を結び、米加国境を越えて走るトラックなどへの通信サービスも行なうという。

最古の昆虫化石、カナダ東岸で発見 動物の陸上出現時期を書き直す?

セントローレンス湾河口のガスベ湾でこれまでで最も古い昆虫の化石が発見された。アメリカの科学雑誌「サイエンス」によると、この昆虫はシミの一種。スミソニアン博物館の古生物学者ヒューバー博士が発見、放射性炭素の年代測定法で3億9,000万年以前のものでわかった。

このシミは、これまで最古の昆虫化石とされていたものより1,500万年も古い。現代の一部のシミとよく似ているため、何百万~何千万年にわたって進化した後のシミではないか、と見られている。

これまで動物が海から陸上に上がったの

はデボン紀で、最古の昆虫化石もデボン紀とされているが、上の説が正しいとすると、デボン紀の前、陸上植物が出現したシルル紀(4億2,100万年~4億800万年前)後期には小型の昆虫が陸上に出現したことになる、と同誌は伝えている。(ニューヨーク発時事通信の記事より)

麻薬教育を義務化 オンタリオ州の学校で

「麻薬の悪用を防止するには早期教育が大切」と、オンタリオ州では学校で子供たちに麻薬の危険性を教え込む教育を始めることになった。

手始めに、州内の教師と教育委員を対象に4か月間、州教育省の麻薬教育課程についてのオリエンテーションを行なう。これをもとに、各学校では7年生以上の全生徒に、コカイン、マリファナ、アルコールなどの危険性について教える。

ピーターソン州首相から麻薬問題特別顧問に任命されたケン・ブラック州議員は、麻薬教育は幼稚園から始めるべきだと主張しているが、クリス教育大臣はとりあえず7年生から始め、徐々に対象学年を下げていきたい、としている。オンタリオ州で麻薬教育が義務化されるのは、今回が初めて。



世界初の開閉式ドーム 今年、トロントに完成

世界初の開閉式屋根付き多目的スタジアム「トロント・スカイドーム」が、いよいよ今年、オンタリオ湖畔に立つ世界一高いCNタワーのわきに完成する。

スカイドームにはいろいろな新しい工夫がなされている。例えば4枚の羽根からなる屋根は、面積3万2,000平方メートル、長さ200メートルもあるが、わずか20分で自動的に開閉できる。これで一年中、天候に左右されずに施設が利用できるわけである。

施設は野球、フットボール、大規模なコンサートやトレードショーなどに利用できるようになっているが、席もそれぞれの目的に応じて配置されている。例えばフィールドに設置された1万7,000席は、フルにイベントが見えるように、回転式になって

いる。野球用の5万2,000席はV字形に、フットボール用の5万4,000席はフィールドと平行に並べられている。コンサートなどの場合は7万人まで収容できる。

また、演劇やコンサートで観客との親近感を高めるため、ドームの中に3万5,000人収容の音響空間「スカイテント」を設けることも可能。これに使われる音響幕は半透明で、映写によく適しており、コマース

ル、スポーツ、コンサート、演劇、その他あらゆるパフォーマンスでマルチメディア効果、グラフィック効果あるいは照明効果を上げるのに向いている。簡単に設置できるスカイテントは、大きい催しものの合間に小さいイベントを行うときに便利だ。

さらに、スカイドームの中に350室のホテルがあり、そのうちの70室からは、いながらにしてドーム内で繰り広げられるさまざまなイベントが楽しめる。

スカイドームは、開閉式の屋根とスタジアムの建築設計およびエンジニアリングを建築家ロードレック・ロビー氏と構造エンジニアのマイケル・アレン氏が、細部設計を設計事務所など3社からなるRANコンソーシアムが、スカイドームの施工をエリス・ドン社が、また屋根の施工をドミニオン・ブリッジ・オンタリオ社などが担当している。オーナーはスタジアム・コーポレーション・オブ・オンタリオ社。

RANコンソーシアムによると、スカイドームの魅力は、およそ4万平方メートル

トロント・ドームと東京ドームの比較

	ドーム構造	フィールド面積	内部の有効高さ	収容能力
トロント	4枚羽根・開閉式	14,000㎡	86m	70,000人
東京	空気膜構造	13,000㎡	62m	56,000人

の比較的狭い場所に建設でき、屋根はあらゆる気象条件や地震あるいは運営条件に100年間も耐え、しかも多目的に利用できることにある。

日本でもこの「トロント・スカイドーム」に注目、熊谷組がRANコンソーシアムと、飛鳥建設がエリス・ドン社と技術提携する契約を結んでいる。

林産物の対日輸出促進

アルバータ州からミツシヨ

カナディアン・ロッキーなどの山岳地帯

を擁するアルバータ州は、州面積の約56%

日本全体の面積とほぼ同137万平方キロが

森林地帯。資源の62%はスルース(モミ)

や米ワツを中心とする針葉樹、38%が落葉

樹のボラで、木材の純販売可能量は25億

立方メートル、年間許容伐採量は2,620万

立方メートルとなっている。

同州では1987年夏から林産品の対日輸出

に力を入れ始め、1年半で輸出量をゼロか

ら年間およそ3千万ポンドに増や

した。金額にして約1,500万ドルである。

この勢いに乗って、林産物の対日輸出を

さらに増大し、また日本企業誘致の可能性

も探るため、昨年11月にはジョーポトン

州森林省大臣を団長に、林業関係の官民代

表者で構成するミッションが来日、日本の

大手住宅メーカーのツバイクナー工場や

プレハブ工場、住宅展示場などを訪問した。

民間からは、アルバータ林産物輸送業協会、

アルバータ林産物協会、ツルーリッジ・ラ

ン

ンバー社、アルバータ・ホワイトゥッド・
インダストリーズ社、ノサン・ワオリス
ト・インダストリーズ社など2協会、14社
が参加した。

モントリオールで対アジア

ビジネス会議

カナダは数年来、環太平洋諸国との関係

強化を図ってきたが、貿易や投資などビジ

ネス上での関係を一層緊密にするため、2

月27日から4日間、環太平洋(ビジネス)

機会会議(PROC VI)をモントリオールで

開催する。日本からはカナダ大使館のトレ

ルパン公使参事官とスペンサー総領事、お

よび高山成雄・日本電子機器輸入協会会長

がスピーカーとして参加する。

晴海の国際食品展

8回目の参加は圧巻32社

人気が年々上がる一方の国際食品展(3

月7日~11日)に、今年はカナダから32社

が大勢参加する。出品の種類は養殖サケ、

キャンディ、牛肉、豚肉、タキー、食肉

加工品、水産物、蜂蜜、冷凍野菜、フロ-

88年度日加研究助成金の受賞は一橋大学に

カナダ研究助成金の受賞者を発表

カナダ大使館では、日本における日加研

究促進のため、さまざまな助成金プログラ

ムを実施しているが、1988年度の審査結果

がこのほど発表された。

●日加研究賞(CJRA) まず、賞金

額(700万円)が最も大きい日加研究賞には、

一橋大学の田中浩教授を中心とするグルー

プが、筑波大学、北海道大学、神戸大学に

次ぐ4番目の受賞者となった。チームは、

「先進工業化社会に関する日加比較研究」。

「技術革新と雇用問題」、「高齢化社会の

政治」、「日本の地方自治とカナダの連邦

制」、「米・日・加の経済関係」という4

つのテーマをとり、両先進工業

国に共通する問題を理論的、比較論的に研

究しようというもの。研究結果は出版され

る予定。カナダ側からヨーク大学のジョソ

・セイヤル教授が研究に助言する。

●カナダ研究開発助成金(CSDP)

日本の大学におけるカナダ研究の態勢をさ

らに発展させる学術的研究活動が対象で、

助成額は出版費用も含めて、最高2万

5,000ドル。筑波大学地域研究所、明治大

学国際交流センター、北海道大学法学部、

受賞。

新潟大学法学部、関西学院大学が受賞した。

●カナダ研究出版助成金(EPP)

日本の大学教員にカナダまたは日加関係に

ついて研究し、論文を発表してもらおうと

いうもの。受賞者は、藤田直晴(明治大学

文学部)「カナダにおける地域および都市

開発の研究」、今井敏信(弘前大学教養部)

「カナダの主要農業地帯における土地利用

の変化」、小林順子(清心女子大学)「ケベ

ク」の『静かな革命』時における教育改革」、

森川真規雄(同志社大学文学部)「カナダ

における香港移住者の同化パターンの研

究」、関口礼子(図書館情報大学)「オンタ

リオ州およびその周辺における教育の歴史

史」、立山龍彦(東海大学文明研究所)「カ

ナダにおける犯罪更正制度」

●カナダ講座充実助成金(FEP)

大学でカナダ講座をさらに充実にさせるた

め、カナダで資料収集や研究を計画してい

る大学教員に与えられる。長谷川瑞穂(東

洋女子短期大学欧米文化学科)、村上(名

古屋大学教養学部)、松平誠(立教大学社

会学部)、三橋節子(青山学院大学国際経

済学科)、沢田克巳(新潟大学法学部)、成

嶋隆(同)、山中輝子(北海道大学教養部)、

奥村皓一(大東文化大学国際関係学部)が

主なカナダ関係行事日程

3/6~	カナダ・フットボール(東京・赤坂)
3/7~11	1週間 リンズ木アム(国際食品市(東京・晴海))
3/14~17	インボートフェア(東京・晴海)
3/18~	カナダ・フットボール(明治)
4/17~20	原子力ロケット・シム(東京・海運プラザ)
4/18~23	東京国際見本市(東京・晴海)
4/28~5/3	アム・リビエ・シヨ(晴海)
5/3~6	カナダ・インダストリアル・フェア
5/24~27	カナダ・フットボール(東京・晴海)

本では田中貴金屬から発売される。日表がエリザベス女王、裏はカエツの葉。1/10オンスの4種類で、額面はそれぞれ50、20、10、5ドル。デザインは金貨と同様、99.95%の地金型コインで、毎日のラチ



純度が高い。ライオン、フランチ・マイル

イナルリオン」4種(写真)を発行した。局は、純プラチナ製コイン「プラチナ・メ

カナダ王室造幣局から

プラチナ・コイン発行

カナダのメーブルリーフ金貨は世界で最も人気のあるコインだが、カナダ王室造幣局は、純プラチナ製コイン「プラチナ・メ

カナダ通信産業の雄ノース・テレコム社が昨年12月7日、関西で初めて通信セミナーを行った。場所は大阪総領事館。3回に分けてノース・テレコムが開発した最新式の機器を紹介したが、会場は毎回あふれるほどの参加者を見た。

